

II 現状分析

1. 概況

本市は、平成 22（2010）年 3 月に加治木町、始良町、蒲生町の 3 町合併により誕生した市であり、鹿児島県のほぼ中央部にあり、南を鹿児島（錦江）湾に面した薩摩半島と大隅半島の分岐点に位置しています。面積は 23,125ha で、東西 23.7km、南北に 24.0km の広がりを持つ菱形の形状をしています。

本市は、約 25,000 年前の噴火により形成された始良カルデラの北西部の外輪山に相当する位置にあり、市の北部は、北薩火山群に属する烏帽子岳（702.9 m）や矢止岳（670 m）等の標高が 500m を超える山々が連なり、鹿児島（錦江）湾に面した地域には思川・別府川・網掛川等によって形成された平野があり、市街地が形成されています。

鹿児島（錦江）湾に面した南部平野部は、鹿児島市のベッドタウンとして発達し、九州自動車道や単人道路、国道 10 号等の主要幹線道路をはじめ、JR 日豊本線が東西に走り、また近接する霧島市には鹿児島空港が立地するなど、交通利便性の高い地域として今後の発展が期待される地域です。一方で、北部山間地域は、県道伊集院蒲生溝辺線、県道川内加治木線や県道栗野加治木線等が通じていますが、南部平野地帯に比べると交通が不便で、過疎化が進展している状況にあります。

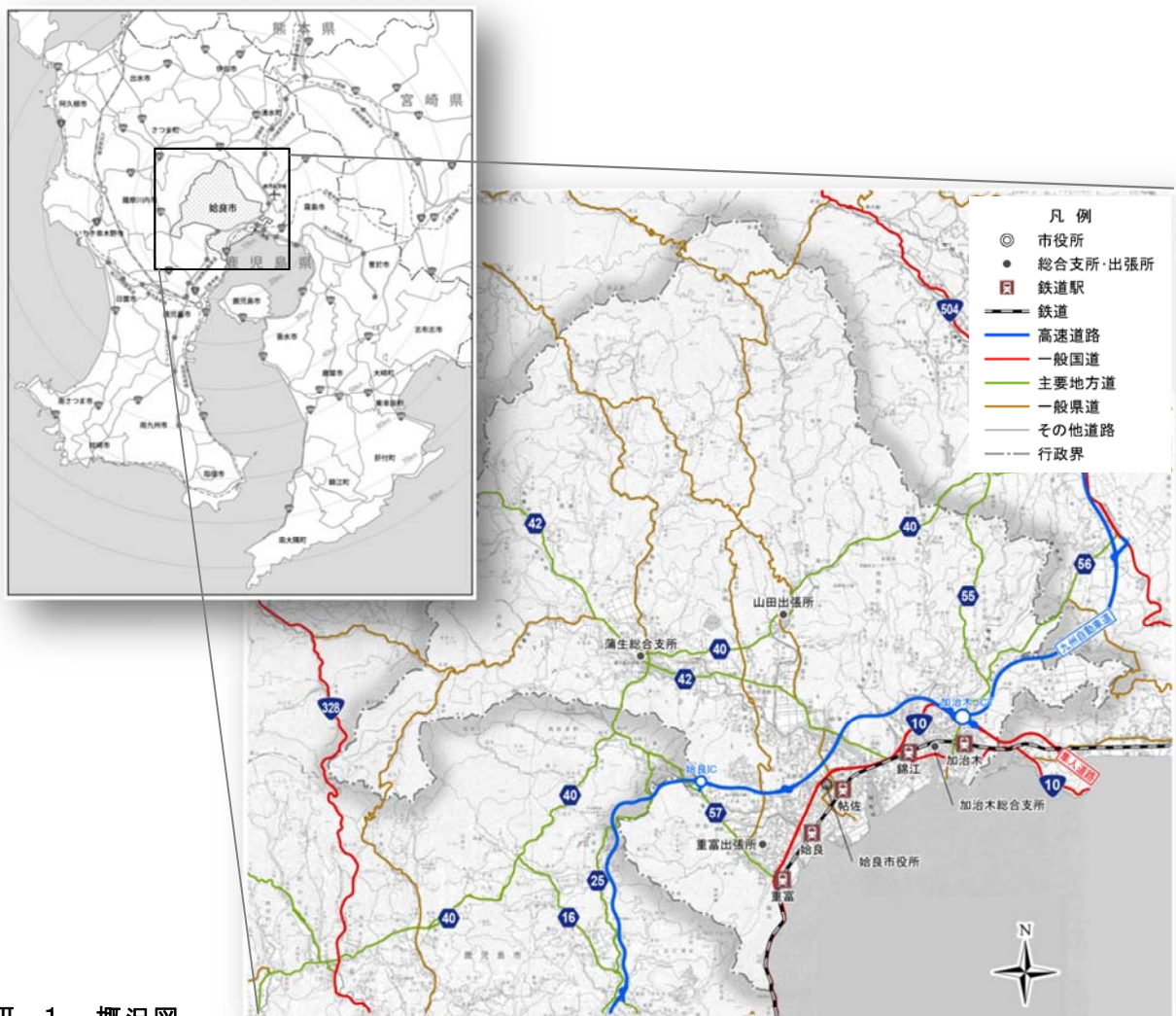


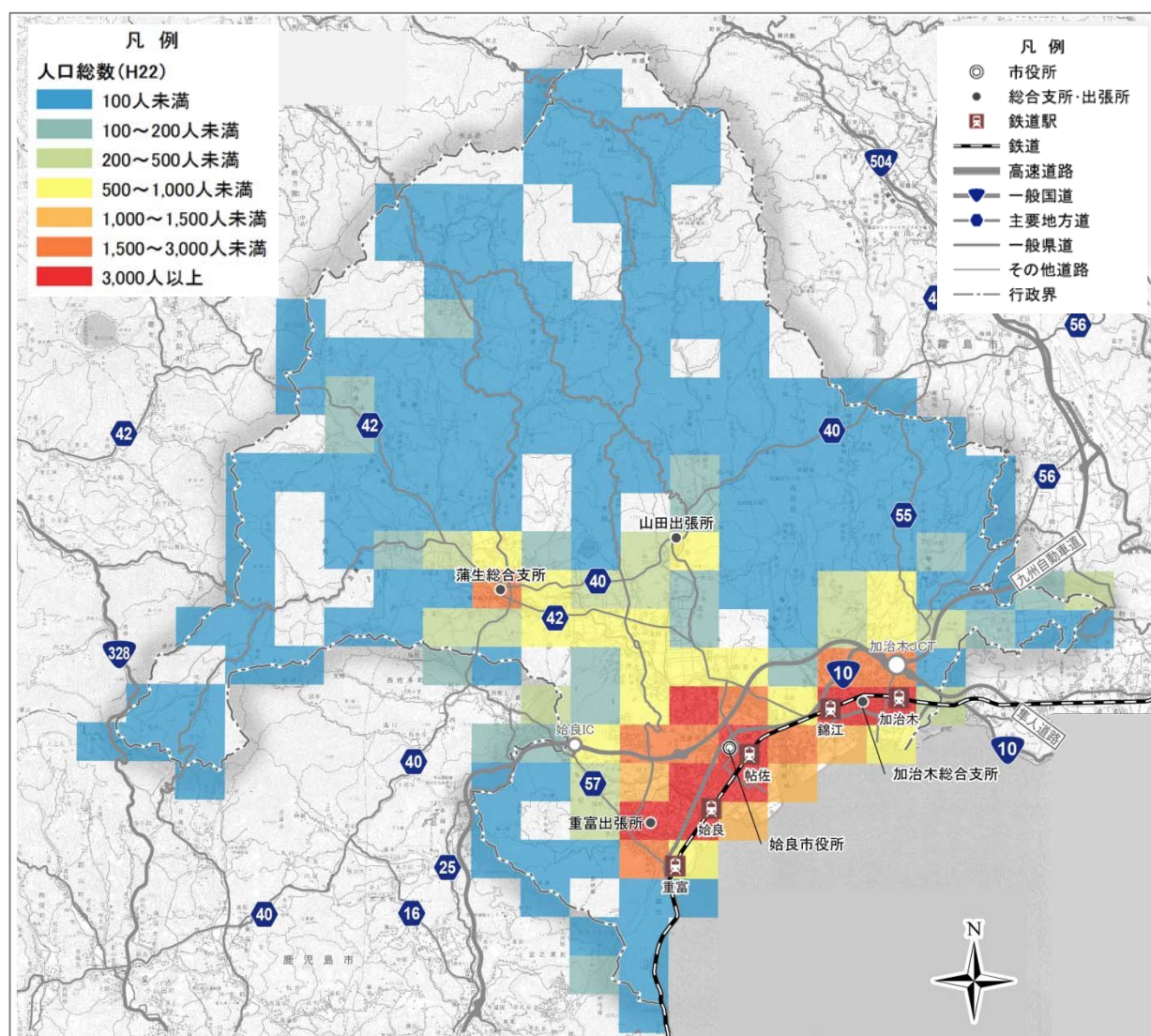
図 II - 1 概況図

2.人口分布

人口は、主に市南部の平野部に集中しており、特に JR 日豊本線の各駅を中心に鉄道沿線、国道 10 号沿線に人口が集中し、市街地を形成しています。

市中心部から内陸部に向けて放射状に延びる県道伊集院蒲生溝辺線や県道川内加治木線、県道栗野加治木線等の主要な幹線道路沿線に人口の分布がみられ、特に市中心部から北西部の薩摩川内市方面に延びる県道川内加治木線の沿線は、南部の平野部から続く平坦地に人口の多いエリアが広がっています。

その他の山間部では、上記の幹線道路やそれらに接続する県道下手山田帖佐線、県道浦蒲生線等の道路を中心に人口の少ないエリアが広がっています。



※国土数値情報^{注1}を基に、1kmメッシュの人口分布を整理

資料：国土数値情報

図Ⅱ-2 人口分布 (H22)

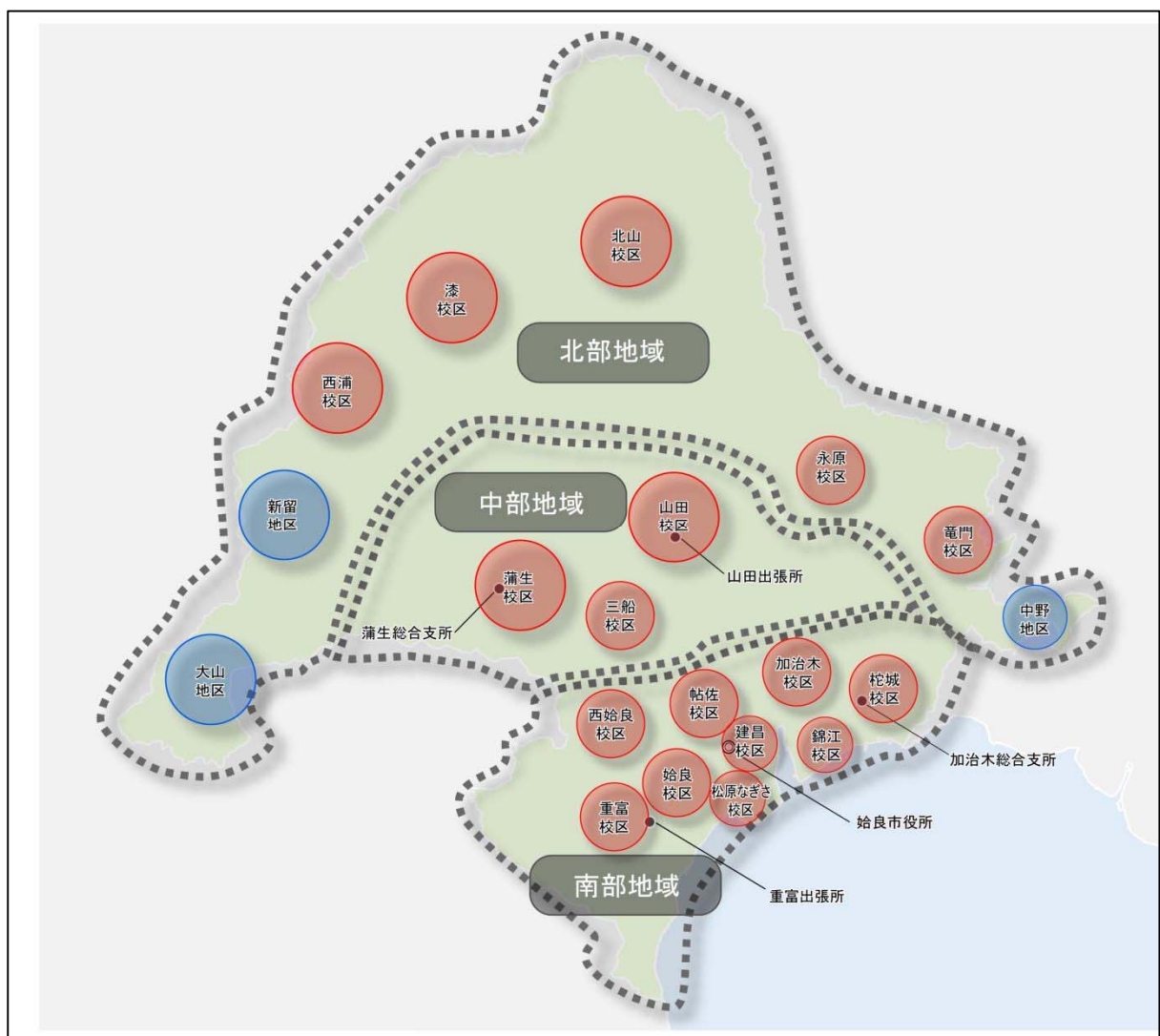
注1：国土数値情報：「国土数値情報」とは、国土交通省国土政策局により提供されるデータで、地形、土地利用、公共施設などの国土に関する基礎的な情報を GIS データとして整備したもの。概ね国土地理院の2万5000分の1地形図（許容誤差：10m超）をベースに作成されている。

3. 地域コミュニティ

近年、少子高齢化や核家族化、都市化などにより、地域の連帯感が弱くなり、防災・防犯、福祉、教育など多くの分野で、個人や個別の団体、行政だけでは解決できない課題が増えています。

本市では、これまでの歴史的経緯や地域特性を踏まえつつ、小学校区を基本として、自治会をはじめ、子ども会、老人クラブなどの各種団体が連携し、校区の目標や課題について話し合い、行動する場としての「校区コミュニティ協議会」との協働によるまち（地域）づくりを推進しています。

現在、本市には以下に示す 17 校区のコミュニティ協議会があり、総合計画における将来のまちづくり地域別^{注2}では、北部地域には 5 つの校区コミュニティ協議会があり、中部地域は 3 つ、南部地域は 9 つの校区コミュニティ協議会があります。



図Ⅱ-3 校区コミュニティ協議会の分布

注2：平成 24 年 3 月に策定された「始良市総合計画」の基本構想（計画期間は、平成 24 年度から平成 30 年度までの 7 年間）内で示された、各校区や地域の特性を踏まえながら、将来のまちづくりの方向性を検討するための地域の枠組み。まちづくりの基本理念と将来像を受けて、地形、都市機能、地域資源などの共通要素等、地域特性を踏まえた地域として設定されたもの。